

市民俳歌柳壇

俳壇 星田一草 選

しもつかれ炊く待春の荒仕事

●石井町 高根沢 富代

◎選評 「しもつかれ」は下野の郷土料理。本来は初午の日に御稻荷さんに供えるものであったと言われる。料理の中心である塩鮭の頭を切り刻む出刃包丁の荒仕事。一連の作業が見えるようである。隣近所と分け合って味比べをする。まさに待春の料理である。楽しい。

初音待つ我難聴の耳をたて

下栗町 大塚 榮子

厨から白き湯気たつ大根汁

江曾島2丁目 坂本 節子

末黒野やサイクルロードまっしぐら

さつき3丁目 伊藤 幸子

うたた寝の刻の過ぎ行く春炬燵

江曾島町 長谷川 昇

寒椿みぞれ交じりに紅の

●大曾5丁目 岩淵 煦美子

見え隠れして大寒に入る

◎選評 寒中に咲く紅の寒椿とみぞれの冷たさを捉えた視覚、色覚がいい。「紅の見え隠れして」みぞれのもたらす紅が見えたり隠れたりする寸景をつぶさに観察し、そこにとつぱり身を置く作者が見える。「大寒に入る」厳しい寒さの到来を告げる結句が効果を上げる。対象を見る確かな眼は歌をも確かなものとした。

妖精のこのみし花か白き花

下荒針町 石川 幸子

入れ替わり立ち替わり来しエサ台の
鳥羨まし我等巢籠り

緑2丁目 片嶋 青水

何思ふ首をかしげてジョウビタキ

下田原町 和田 文男

沼つ原の残雪消えぬ湿原に
鶯聞きて落の臺つむ

峰4丁目 内藤 一夫

針供養豆腐に罪はなかりけり

●平松本町 川野 和美

◎選評 その昔、針仕事は女性必須の事とされ、裁縫所などに通う女性は多かった。裁縫所などでは、昔から続けられて来た針供養（2月8日）には折れたり不用になったりした針を集め、豆腐や蒟蒻に刺し、淡島神社に奉納。重ねて裁縫の上達を祈っている。

孫が来る電話に髭を刷らされる

陽東3丁目 伊澤 秀夫

髭はまだ伸びる確かに生きている

茂原2丁目 野口 久弥

婚活の顔は見馴れた顔ばかり

中岡本町 中沢 智子

日向ぼこ猫にもあった指定席

清原台4丁目 水上 義明

柳壇 荒井宗明 選

◎俳歌柳壇 応募方法 1人各3句（首）以内。対象は市内在住の人で、未発表作品。はがきに、作品（漢字にはふりがなも）・住所・氏名・ふりがな・応募する壇名を書き、毎月20日（消印有効）までに、〒320-8540 市役所広報広聴課 ☎(632) 20228へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。

歌壇 安野登美子 選

俳壇

星田一草 選

準大賞 大賞

卒業子からの葉書に感謝の字

さつき3丁目 伊藤 幸子

まんさくや納屋の農機を手入れする

茂原3丁目 原田 正雄

晩酌を妻にすすめし豊の秋

石井町 吉澤 伸人

まひるまの息を潜めし白い月

●唯ぼんやりと天空に座す

緑2丁目 片嶋 青水

若竹の獅子舞ふ如く右左風になびいてコロナ禍はらふ

長岡町 赤羽 スミ

花びらのすべてに力漲らせ白の牡丹は夕刻に閉ず

野沢町 鈴木 孝男

歌壇

安野登美子 選

準大賞 大賞

補聴器とマスク眼鏡へ耳の愚痴

花園町 小林 秀行

一坪の庭にも春は来てくれる

清原台4丁目 水上 義明

その時はその時五年日記買う

埴田2丁目 渡辺 眞左

柳壇

荒井宗明 選

準大賞 大賞

施設の教室・講座

市民俳歌柳壇 令和2年度年間賞

令和2年4月号〜令和3年3月号の「市民俳歌柳壇」コーナーに掲載した作品の中から、左の通り、優れた作品が「年間賞」として選ばれました（敬称略）。

入賞者には、後日、記念品をお送りします。

☎広報広聴課 ☎(632) 20228